



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society  
愛知県支部

# 日赤あいち

No. 161

2025. 冬

- ▶ CLOSE UP  
令和6年能登半島地震から1年  
～続ける寄り添う支援～
- ▶ TOPICS  
愛知県支部長新年のご挨拶
- ▶ Information

CLOSE UP

令和6年  
能登半島地震から1年  
～続ける寄り添う支援～



## Information インフォメーション

### 卒業献血キャンペーン

#### 未来を紡ぐあなたの献血

愛知県赤十字血液センターでは、この春に高校・短大・専門学校・大学を卒業される学生の方を対象に「卒業献血キャンペーン」を実施しています。県内9カ所の献血ルームまたは献血バスで献血の受付をされたラブラッド会員の方（当日、会員に登録された方も対象）に「モバイルバッテリー」をプレゼント！（学生証をご提示ください）。期間は令和7年3月31日（月）まで。（記念品が無くなり次第終了）将来にわたって輸血用血液を必要とする患者さんの命を守るためには、若い方々の献血へのご協力が必要です。この機会にぜひ、献血会場へお越しください。



### 介護予防講演会 「転倒骨折予防と健康寿命の延伸 ～骨折しても介護に頼らない体づくり～」

日進市と日本赤十字社愛知県支部は令和5年4月に「地域の支え合いを通じた高齢者健康生活支援モデル事業連携協定」を締結し、これまで協働で様々な取り組みを実施してきました。今回はその取り組みの一環として、介護予防講演会を実施します。皆様のご来場お待ちしております！

講師 日本赤十字社愛知県医療センター  
名古屋第二病院（八事日赤）  
院長 佐藤 公治  
（整形外科・脊椎脊髄外科専門医）

日時 令和7年2月27日（木）  
10時～11時半

場所 日進市民会館小ホール

定員 先着150名（申込不要）



### TOPICS REPORT NEWS CAMPAIGN

#### 日本赤十字豊田看護大学 入試情報

##### 赤十字の理念のもと、一緒に看護師を目指そう

日本赤十字豊田看護大学は、日本赤十字社愛知支部病院看護看護婦養成所として発足し80余年の歴史を持つ中部圏唯一の赤十字の看護大学であり、全国で卒業生が活躍しています。医療・保健から災害看護・国際活動まであらゆる現場で活躍できる看護師を目指し、災害看護や国際交流、実習に力を入れ、実践力をしっかりと身につけることができます。

一般入試の出願は1月6日から！個別学力試験のない共通テスト利用選抜を含め本学は1月から3月まで試験があり、進学先を早く決めたい方も最後まで頑張りたい方もどちらも応援します！赤十字の仲間になり、本学で看護師を目指しませんか。



入試情報は  
こちら



令和7年度入試情報（2025年4月入学）  
注：入試科目や出願期間等、詳細は本学ホームページをご覧ください。

試験名	試験日	合格発表日
大学独自選抜特待生プラス	1/25(土)	1/31(金)
大学入学共通テスト利用選抜(前期A・B)	個別試験なし	2/7(金)
大学入学共通テスト利用選抜(後期)	3/4(火) ※面接のみ	3/7(金)
大学入学共通テスト利用選抜(赤十字6看護大学連携併願選抜)	個別試験なし	3/3(月)

## 活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ 江口光株式会社 様
- ▶ シンコー株式会社 様
- ▶ 中西電機工業株式会社 様
- ▶ 日本パッキング株式会社 様
- ▶ 藤吉工業株式会社 様
- ▶ 株式会社名古屋銀行 様
- ▶ 株式会社ナブエヤー 様
- ▶ 株式会社平岩鉄工所 様
- ▶ 株式会社山忠 様

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

郵便振替口座／00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部  
郵便局備え付けの振込取扱票でお手続きください。



〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)  
発行元／日本赤十字社愛知県支部 発行日／令和7年1月1日



活動の詳細や最新情報は  
ウェブサイトかSNSへ

日赤あいち 検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



Instagram  
NISSEKI.AICHI

## PRESENT

### ハートラちゃん クリアファイル

ハートラちゃんのクリアファイルを抽選でプレゼント

5名様



Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp  
Fax : 052-971-1590  
郵 送 : 〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50  
日本赤十字社愛知県支部  
「日赤あいちプレゼント」係

- 明記事項
- ①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
  - ④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先
  - ⑥ご意見・ご感想など
- 締切／令和7年3月31日必着

## Topics トピックス

活動やイベントを報告します

### 地域に根差した取り組みに向けて～市町村との連携～

当支部では、「子ども・子育て世代の支援」、「高齢者健康生活支援」、「多文化共生社会の実現に向けた事業の推進」、「災害時の被災者支援」を重点分野として事業の推進を図っています。

社会ニーズの変化や地域の期待に沿った新たな事業を創出するため、令和5年度からこれまで日進市や知多市と連携協定を締結し、それぞれの地域に根差した事業を実施してきましたが、今回新たに西尾市、蒲郡市、美浜町と連携協定を締結いたしました。

今後も市町村と連携した取り組みを拡充させ、企業・団体とも一層連携を強化することで事業の充実を図り、地域に根差した取り組みを推進してまいります。



### 令和6年愛知県赤十字大会を開催

令和6年12月12日（木）「令和6年愛知県赤十字大会」を日本赤十字社名誉副総裁高円宮妃久子殿下ご臨席のもと愛知県芸術劇場大ホールで開催しました。

式典には、活動資金の協力やボランティア活動など赤十字活動を支援くださっている約1100名にご参加いただき、有功章の御授与や感謝状の贈呈が行われました。

体験発表は、今年の夏にモンゴル赤十字社との国際交流に参加した愛知県立松蔭高等学校2年生の水谷有希さんが行いました。現地での貴重な体験や今回の経験から学んだことに交流会で深めたモンゴル・日本人メンバーとの思い出を交え、写真とともに振り返りながらの心温まる発表でした。



謹んで新春のお慶びを申し上げます

平素から赤十字事業の推進に格別のご理解とご高配を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、医療救護班の派遣や救護物資の配布など、全社をあげて支援活動を行いました。当支部におきましては被災当日から活動を開始し、現地への職員派遣や救護班の派遣、救護物資の運搬など支援を行うほか、その後も愛知県内の赤十字ボランティアを派遣するなど、被災地に寄り添った支援を続けてまいりました。

また、平時の活動として、災害発生時に迅速な対応ができるよう様々な想定での訓練・研修を実施するほか、救急法等の講習普及、青少年赤十字、赤十字ボランティアの育成など、地域の方々のいのちと健康、尊厳を守る活動の充実に努めてまいります。

さらに、社会ニーズが一層、多様化・複雑化し、貧困問題や孤独・孤立問題など様々な課題が顕在化している中、地域社会に必要とされる赤十字事業の推進をより一層図っていくために、子ども・子育て世代の支援、高齢者健康生活支援、多文化共生社会の実現に向けた事業の推進、災害時の被災者支援という4つの重点分野を中心に、新たに社会課題に応じた活動を実施しているところです。

本年も地域の課題解決に資する赤十字事業の新たな展開に向けて取り組み、県民の皆様からのご期待に応えるべく尽力してまいりますので、今後とも引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社  
愛知県支部  
支部長  
大村 秀孝

## 第42回 NHK海外たすけあい

NHKと日本赤十字社は毎年12月に「NHK海外たすけあい」として、世界で苦しんでいる人々を支援するための寄付金を募集しています。

今回もNHK名古屋放送局や愛知県支部で寄付金の受付を実施し、その他にも県内各地で赤十字奉仕団による街頭募金を行い、多くの方にご協力をいただきました。

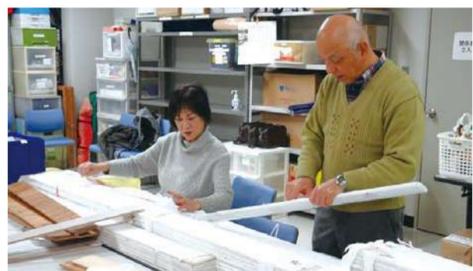
皆様からお寄せいただいた寄付金は、海外の紛争や災害、飢餓、病気などにより苦しんでいる人々を支援する赤十字の活動に役立てられます。

ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



## 赤十字の講習普及を支える奉仕団活動

赤十字講習指導員として認定を受けたボランティアで組織される愛知県赤十字安全奉仕団は、日頃の講習指導の活動に加え、講習に使用している資料の整備や修理を定期的に行っています。赤十字講習会は、AEDトレーナー機や三角巾など多くの資料を用いて実施しています。資料整備は、皆さんが安心・安全・清潔に講習を受講するために欠かせないので、講習普及と同じ大切な活動となっています。



## モスクで救急法短期講習を実施！ ～身近な人の命を救うために～

イスラームの礼拝施設、飛鳥モスク。

11月、蟹江警察署から依頼をいただき、モスクに集まったスリランカやパキスタンの方々を対象に「やさしい日本語」による救急法短期講習を実施しました。災害の多い日本で暮らすことに不安を感じている方が多く、真剣な表情で講習を受けられている姿がとても印象的でした。誰もが安心して生活できる多文化共生社会の実現に向けて、日本赤十字社愛知県支部は関係機関と連携した取り組みを続けていきます。



## 奉仕団リーダー交流研修会

11月11日(月)～12日(火)、福井県にて奉仕団リーダー交流研修会を開催しました。

参加者相互の情報交換や他県支部との交流をととして、奉仕団活動の活性化や奉仕団同士の連携につなげることを目的とした研修です。人道の港・敦賀ムゼウムをはじめ福井県内の赤十字ゆかりの地を見学し、研修2日目には福井県支部赤十字奉仕団の方々との意見交換会を行いました。愛知県内の奉仕団員同士の交流を深め、福井県支部の奉仕団活動に刺激を受け、今後の新たな奉仕団活動につながる有意義な研修会となりました。



## 愛知県支部が行う 地域のための 防災・減災訓練

日本赤十字社愛知県支部では、地域住民の自助力・共助力の向上、市町村が推進する防災・減災の取り組みの支援を目的として、県内の市町村と協働で「地域のための防災・減災訓練」を実施しています。令和6年度は豊田市と協働で、市内の医療機関をはじめとした関係機関や日本の医療チームによる医療救護実働訓練を実施しました。訓練当日10月27日(日)、会場となった日本赤十字豊田看護大学へは、豊田市、関係機関、避難者・傷病者役ボランティア等、約180人が集まりました。

平時はそれぞれの場所で医療に従事しているメンバーが、有事には地域を支えるために職種や施設を超えて連携します。その連携を深めることが、一人でも多くの人を救うことにつながることを、私たちは過去の災害から学んでいます。



## 訓練に参加した日本赤十字豊田看護大学の学生の声

今回、避難者・傷病者役で訓練に参加した日本赤十字豊田看護大学4年生の亀谷さんと齊藤さんは「被災した方の目線で訓練に参加し、それぞれの職種の役割と連携することの大切さを考える時間となった。」「様々な事情を抱えた避難者がいる中で、その人が求めていることは何か考えることが支援につながると感じた。」「人に寄り添う力は、日頃から相手を思いやる気持ちを持つことの積み重ねだと実感した。」と、将来看護師となった自分自身の姿を思い描きながら、訓練に臨んでくれました。



亀谷 愛さん 齊藤 彩加さん

令和6年1月に起きた地震や9月の大雨による災害が石川県を中心に甚大な被害をもたらした。多くの人が日々を奪われ、愛知県支部でも被災直後から救護班の派遣や救護物資の配布、こころのケアなど被災地支援を続けてきました。

令和6年能登半島地震からまもなく1年が経とうとする12月14日、愛知県の赤十字ボランティアが石川県の志賀町児童館を訪ね、集まった子どもたちなどを対象に、キッチンカーによる温かい食事の提供や、工作体験を通じた支援活動を行いました。

今回派遣されたのは、愛知県赤十字救護奉仕団員や赤十字ユースボランティアの8名。愛知県赤十字災害救護奉仕団と地元石川県の赤十字奉仕団が協力して、愛知県支部のキッチンカーを活用しながら温かい、卵とじうどんや、炊き込みご飯のおにぎり、また地元で獲れたサツマイモを使った「蒸しパン」を提供しました。この日は雪がちらつく寒空でしたが、温かい食事の提供に多くの笑顔が見られました。

また児童館の中では、ユースボランティアが子どもたちを対象にプラ板、バルーンアートづくりなどを実施しました。今回の派遣が決まった段階から、ユースボランティア同士で何度も話し合いを行い、現地の子どもたちが喜んでくれるプログラムを考え、準備してきました。朝から多くの子どもたちが楽しく参加してくれて、ユースボランティアにも安堵の表情が見られました。最後には、プラ板で作った飾りをクリスマスツリーに飾って、素敵なツリーが完成しました。

時間の経過とともに必要な支援も変化していきます。被災地に寄り添った支援を、今後も私たちは続けていきます。



令和6年1月1日能登半島地震



愛知県支部職員を派遣



石川県支部災害対策本部での活動



赤十字ボランティアの活動



臨時救護所の立ち上げ



医療救護班の派遣



避難所での巡回診療



令和6年9月能登半島豪雨災害



災害医療コーディネイトチームの派遣

